HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	大統領，スロバキア共和国政府，1942 年におけるスロバキアからのユダヤ人強制移送 … マルティナ・フィアモヴァ
著者	木村，和範；KIMURA，Kazunori
引用	季刊北海学園大学経済論集，70(4)：167-180
発行日	2023-03-31

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

《翻訳》

大統領，スロバキア共和国政府，1942 年における スロバキアからのユダヤ人強制移送*

マルティナ・フィアモヴァ**
木　村　和　範***（訳）

1．強制移送の準備と中央政府の対応
2．憲法（1942 年法律第 68 号）とユダヤ人の再定住
3．再定住にたいするドイツの圧力と移送経費
4．ヨゼフ・ティソ
5．結論

1．強制移送の準備と中央政府の対応

スロバキアでは「ユダヤ人問題の解決」は，政権与党フリンカ･スロバキア人民党（Hlinkova slovenská ľudová strana: HSĽS）にとって，大きな意味を持つ内政上の課題であった。同党は，1939 年にスロバキアが独立する以前から反ユダヤ的な姿勢を公言していたからである。マイノリティのユダヤ人と政府の関係は，このようにはっきりしているが(補注1)，フリンカ・スロバキア人民党政権（「ルダーク政権」とも呼ばれる。）がユダヤ人の迫害を計画し，それを実行に移してゆく過程は，スロバキア共和国の時代を通じて，様々な段階を踏むことになった。複数の内外の政治的要因がそのときどきのダイナミクスに影響を与えたためである。

法律や規制が次々と繰り出され，政治的，文化的，社会的な分野だけでなく，とくに経済的な分野からユダヤ人が意図的に排除され，何万人ものユダヤ人は辛酸を舐め，貧困化した。ユダヤ人経営のアーリア化と清算，およ

＊“The President, the Government of the Slovak Republic, and the Deportations of Jews from Slovakia in 1942,” in: Ján Hlavinka, Hana Kubátová, and Fedor Blaščák（ed.）, *Uncovering the Shoah: Resistance of Jews and Efforts to Inform the World on Genocide*（*Proceedings from the Conference Žilina, Slovakia, 25–26 August 2015*）, pp. 63–76. ジリナにおけるこの研究会の主催団体は International Christian Embassy Jerusalem と Institute of History of Slovak Academy of Sciences であり，研究会の開催と論文集の刊行には Conference on the Jewish Material Claims to Germany からの助成を受けた。訳者の照会により原論文にたいして追加された説明で長いものは「補注」として別記したが，簡単な補強については原文に加筆して訳出した。訳文中の［　］内と各章の番号付けは訳者による。翻訳出版は原著者の許諾済み。

＊＊Martina Fiamová, Institute of History of Slovak Academy of Sciences

＊＊＊本学名誉教授

（補注 1）スロバキアのユダヤ人にたいして政府は，1938 年 10 月以降は否定的態度をとり（1939 年 3 月以降はさらにそれが強まり），敵意を顕（あらわ）にした。その意図は，スロバキアにおける経済的，政治的，社会的，文化的な諸領域でのユダヤ人の活動を規制し，最終的には排除することであった。ユダヤ人は公然とスロバキア国民の敵であるとされた。このことは誰の目にも明らかであった。なお，すぐ下に出る「ルダーク（Ľudák）」は，「フリンカ・スロバキア人民党の党員とその支持者」のことである。

び様々な専門的職業従事者の就業禁止によって，ユダヤ人コミュニティは広範囲に渡って社会変化を被ったわけである。1941 年末には，国家権力は，狙いを定めた反ユダヤ政策によって，生活の術(すべ)を持たない貧しい市民を大量に生み出すことに成功した。その結果，貧困化した市民は，自分たちを敵視している国家の援助に依存しなければ生きてゆけなくなってしまった。この問題を解決するために，政府は，ユダヤ人の労働義務を法制化し，またヴォイテフ・トゥカ（Vojtech Tuka）はゲットーの創設を提案したが[1]，そのいずれもが成功しなかった。

しかしながら，1941 年末になると一つの機会が訪れて，スロバキア政府は「重荷から解放される」ことになった。ナチス・ドイツの領土からのユダヤ人の強制移送とともに，その機会がやって来たのである。この問題は，1941 年 10 月にヨゼフ・ティソ（Jozef Tiso）がヒトラーを訪問したときにすでにスロバキア政府代表団と話し合われていた。そのことは，内務大臣アレクサンデル・マッハ（Alexander Mach）の主張からも推測することができる。マッハは，1942 年 3 月 26 日の国務院でこのときの訪問について次のように発言した。「我が方としましては，ユダヤ人問題にかんしてもドイツに援助を懇請しました。ドイツの力を借りて，ユダヤ人を排除したいからです。総統と一緒に官邸にいたとき，私たちは最も重要な第一歩を踏み出しました。外務大臣同席のもとで，ヒムラー（Heinrich Himmler）と話す機会がありました。貴国にはユダヤ人がどれだけいるかと問われ，9 万人いると答えました。先方は，その 9 万人が欲しいと言いました。私たちが滞在した一帯は，我が国の国土が 2 つも 3 つも入るだけの広さがあり，そこにはこれまでに爆撃された村落もなければ，今後爆撃される恐れがあるような村落もありません。しかも，土地がいいときています。こうして，この構想が生まれました。私たちはそれをお蔵入りにはしませんでした。」[2] 1941 年の秋になると，ドイツ帝国の領土（ボヘミア・モラビア保護領とオストマルク［旧オーストリア］を含む）からユダヤ人（スロバキア国籍のユダヤ人もそうでないユダヤ人も）を「東方のゲットー」へと移住させる問題が議論された。ナチス外務省次官マルティン・ルター（Martin Luther）は，1941 年 11 月 17 日付の書簡で，ブラチスラバ駐在ドイツ大使ハンス・E. ルディン（Hanns E. Ludin）に，スロバキア国籍を持つユダヤ人にたいする強制移送にスロバキア政府が同意するか，あるいは自国に引き取るか，どちらにするかを照会するよう指示した。その旨スロバキア外務省に通知したルディンは[3]，そ

(1)「営業免許を剥奪されたり，［資産を］奪われたりしたユダヤ人が仕事を失い，大挙して路頭に迷っている。私はユダヤ人を入植させようと思う。そして，現地事務所がユダヤ教の宗教団体代表を呼び寄せて，住民の収入源となる何らかの工業を備えた約 1 万人規模の都市を建設できないかどうかを審議させようと思う。ユダヤ人は自分たちの力で都市を建設しなければならない。」Kamenec, Ivan and Nižňanský, Eduard（eds.），*Holokaust na Slovensku 2. Prezident, vláda, Snem SR a Štátna rada o židovskej otázke (1939–1945)*,［Holocaust in Slovakia 2. The President, the Government, the Slovak Parliament and the State Council on the Jewish Question（1939–1945）,］Bratislava: Nadácia Milana Šimečku, 2003, Document 20, p. 82.

(2) Kamenec, Ivan and Nižňanský, Eduard（eds.），*Holokaust na Slovensku 2...*, Documente 57, p. 172.

(3) 1941 年 11 月 21 日，ドイツ大使館参事官マックス・リンゲルマン（Max Ringelmann）は，スロバキア外務省に次のように通告した。「ドイツ政府は，帝国およびボヘミア・モラビア保護領に居住するすべてのユダヤ人の東方への移送を可及的速やかに実施することにした。ドイツ政府は，とくに保護領内に居住する膨大な数のスロバキア国籍のユダヤ人については，スロバキア政府が当該ユダヤ人をその他のユダヤ人と一緒にドイツ帝国領土から東方に移送することを望むのか，それともスロバキア国籍を持つユダヤ人をスロバキアに移送することを望むのか，二つに一つ，どちらに

の後早々と1941年12月4日には，次のようにベルリンに報告することができた。スロバキア政府としては「スロバキア国籍のユダヤ人を東方のゲットーに移送することには原則として同意するものの，当該ユダヤ人の動産および不動産にたいするスロバキア政府の正当な請求権が危険に晒(さら)されることはあってはならないと強硬に主張している。」[4]

国内外の公文書館にまで網を広げて調査したにもかかわらず，スロバキアからのユダヤ人強制移送の準備に至る経過（1942年1月～2月）を正確に再現することは，いまだに困難である。スロバキアがドイツ軍にユダヤ人を提供したのか，それともドイツ帝国がユダヤ人労働力を要請したのかという問題には，まだ決定的な答えが得られていないからである。いくつかの資料によると，ドイツは，スロバキア人労働力の帝国内への割当数の増員を要求したところ，官邸で人事部長の要職にあったイジドール・コソ（Izidor Koso）と合意の上でスロバキア政府全権代表は，それではユダヤ人2万人を提供しますと帝国労働省代表のグスタフ・ザーゲル（Gustav Sager）に言ったとされている。（スロバキアにおける「ユダヤ人問題解決」に当たったドイツ人顧問官ディーター・ヴィスリチェニー（Dieter Wisliceny）は，戦後になってからこの申し出があったことには間違いないと証言した。）[5]

しかし，1942年8月，［ドイツ外務省次官］マルティン・ルターはユダヤ人をドイツ帝国から移送してしまえば，労働力不足が恒常的に発生すると述べている。ドイツ側がスロバキア政府にユダヤ人労働者2万人を要請したのはそのためであった。（「親衛隊全国指導者［ヒムラー］の指示を受けた国家保安本部（Reichssicherheitshauptamt：RSHA）は外務省に要請して，スロバキアの壮健なユダヤ人青年2万人をスロバキア政府に供出させて，東方に移送することにした。ブラチスラバ駐在ドイツ大使館 …… にもその旨通知した。」[6]）いずれにせよ，ルターは，1942年2月16日にブラチスラバ駐在大使ルディンに次のように書き送っている。「ヨーロッパにおけるユダヤ人問題の最終解決のためのさらなる措置として，ドイツ政府は，壮健なスロバキアのユダヤ人青年2万人以上を引き取り，労働力が逼迫している東方に移送する考えである。その旨，現地政府に通知されたい。スロバキア政府との間で基本合意があり次第，ユダヤ人問題担当顧問官が直接その詳細を説明する。」[7] この数日後，ルディンは，スロバキア政府が「諸手(もろて)を挙げてこの提案を受諾」したので[8]，その準備作業に着手できる旨，回答した。前述した1942年8月のルターによる文書［脚注6参照］には次のように記載されている。「スロバキア政府の熱狂的な承認を受けた親衛隊全国指導者［ヒムラー］は，スロバキアに居住する残余のユダヤ人も東方に移送し，スロバキアがユダヤ人のいない国づくりをするよう提言した。……スロバキア政府は，ドイツが何の圧力も加えなかったのに，すべてのユダヤ人を強制移送することに同意し，大統領もみずからそれに

するか即答を求める。」Kamenec, Ivan and Nižňanský, Eduard (eds.), *Holokaust na Slovensku 2...*, Documente 42, p. 136.

(4) Nižňanský, Eduard (ed.), *Holokaust na Slovensku 4. Dokumenty nemeckej provenience (1939–1945)*, [Holocaust in Slovakia 4. Documents of German Provenance (1939–1945),] Bratislava: Nadácia Milana Šimečku, Židovská náboženská obec, 2003, Document 27, p. 112.

(5) Nižňanský, Eduard, *Politika antisemitizma a holokaust na Slovensku v rokoch 1938–1945* (in print). [The Politics of Antisemitism and the Holocaust in Slovakia 1938–1945 (in print).]

(6) Nižňanský, E. (ed.), *Holokaust na Slovensku 4...*, Document 65, p. 211.

(7) *Ibid.*, Document 28, p. 113.

(8) *Ibid.*, Document 29, p. 114.

同意した。この報告は，帝国外務省本省に提出された。さらにまた，スロバキア政府は，追放されたユダヤ人一人につき 500 ライヒスマルクを支払うことに同意した。」[9]

スロバキア共和国首相兼外務大臣ヴォイテフ・トゥカと内務大臣アレクサンデル・マッハ（フリンカ警固団総司令官兼務）は，1942 年 3 月 3 日の会議で強制移送について政府に報告した。トゥカは，ドイツ政府高官が「［スロバキア］国籍の剥奪を条件として，すべてのユダヤ人を引き取る意向を示した。」とだけ伝えたが，マッハは，この問題について「［スロバキア］政府が留意すべき事柄」[10] を詳細に言及した。

スロバキアからの強制移送は 1942 年春に準備されたが，それについては，立法と行政の両方で決定的な国家権力を持っていなかった国務院が果した役割について言及しておかなければならない。（ただし，国務院の各メンバーは，議会だけでなく政府の中でも重要な位置を占めていた。）1942 年 3 月 6 日，国務院の会議に出席したトゥカは，次のように述べた。「ユダヤ人問題は，ユダヤ人をウクライナに移住させることによって，漸次的に解決されるべきものである。ユダヤ人には，すでに居住地を通告してある。ユダヤ人がわが国の国土を離れれば，スロバキア共和国の国民でなくなる。彼らには 14 日分の食料が与えられる。」それと同時に，トゥカは，スロバキア共和国にはユダヤ人一人当たり 500 ライヒスマルクを支払う義務があると述べ，強制移送の期間を 1942 年 3 月から（おそらく）8 月までと定めた。国務院もこの報告に注目したが，ただそれだけでこれと言った措置は執らなかった[11]。

しかし，国務院での報告があってはじめて強制移送が準備されたと考えるのは，間違いである。実は準備作業は，その数週間も前に始まっていたからである。それを担当したのは，主として内務省第 14 局（「ユダヤ人」局），憲兵隊，運輸公共事業省（鉄道局），中央経済局，フリンカ・スロバキア人民党，フリンカ警固団［フリンカ・スロバキア人民党の準軍事組織］，義勇親衛隊（Freiwillige Schutzstaffel: FS）［ドイツ党の準軍事組織］，各種行政機関である。

たとえば，内務省はすでに 1942 年 2 月 12 日にはスロバキア国内に居住するすべてのユダヤ人の名簿を作成するよう指示し，2 月 21 日の同省の決定により，16 歳から 45 歳までの男女すべてのユダヤ人［の氏名］を同月末までに「提出」する手はずが整った。さらにまた，内務省は再定住の段取りをしやすくするために，いくつかの省令を公布した。1942 年 2 月 25 日には，ユダヤ人には自由な移動が制限され，最初の移送列車がスロバキアを出発する前日の 3 月 25 日になると，内務省はユダヤ人にいかなる移動をも禁止した。移送列車の準備は 3 月 5 日に始まり，1942 年 3 月 12 日に県当局は強制移送にかんする最初の実施要領を受け取った。青年を乗せた最初の移送列車が出発すると，すぐにでも区別なくすべてのユダヤ人に移送の順番が来ることは，もはや火を見るより明らかであった。内務省は，運輸公共事業省にたいして［内務省］第 14 局長ゲイザ・コンカ（Gejza Konka）とドイツ人「顧問官」ヴィスリチェニーとの間で行われたユダヤ人移送会議の席で，重大な変化が生じたと通達した。ヴィスリチェニーは，「本年 4 月 4 日以降の移送計画には，家族（労働可能なユダヤ人だけでなく，その世帯員）も含める旨，ベルリンからの命令があった」ことを通達したのである[12]。

1942 年 3 月 26 日，国務院は強制移送について再び議論した。このとき，弁護士でも

(9) *Ibid*., Document 65, pp. 211–212.

(10) Kamenc, I. and Nižňanský, E. (eds.), *Holokaust na Slovensku 2*..., Document 47, p. 142.

(11) Kamenc, I. and Nižňanský, E. (eds.), *Holokaust na Slovensku 2*..., Document 50, p. 147.

あった国務院議員ヤーン・バルコ（Ján Balko）は，「キリスト教徒としての洗礼を受けていないユダヤ人と同様に，洗礼を受けたユダヤ人（すなわちキリスト教徒）までも，外国に引き渡すことは，憲法の倫理的道徳的原則に叶うことなのか。」と疑義を述べた。そして，移送がもたらす経済的打撃について熱弁し，「ユダヤ人を再定住させるのであれば，その見返りとして，第三帝国から我が労働者を引き上げるように要求しようではないか。国内に居住しない［ドイツに居住する］労働者の賃金が，対独国際収支を悪化させているからである。そのような解決策が実行不能であれば，ユダヤ人を労働収容所で労働させて，自国で失われた高価な労働力を安価な労働力で補うことにしよう。」と主張した。前後の状況から読み取ると，バルコにとってユダヤ人とは，もっぱらスロバキア共和国の「国民経済にできた大きな穴を埋める」ための捨て駒であった。バルコは，ユダヤ人の強制移送にかんするスロバキアとドイツの協定が国際条約として締結されたかどうかを問題視して，「スロバキア共和国憲法によれば，このような条約を締結できるのは，共和国大統領かその全権である。」と述べた。この発言は注目に値する。国務院議員マッハは次のように回答した。「弁護士の皆さんは，言を左右に弄していらっしゃる。国際法に基づく交通整理は，先の話です。それよりも，戦争に勝つことのほうが重要です。戦争に勝つということは，ユダヤ人がいなくても，我々にはあらゆる分野にあまねく能力があることを示すという，政治的な威信にかかわる問題でもあるのです。首相には，このことを申し上げておきたい。ドイツはすべてにおいて我々の掌中にあるのです。紙切れを欲しがっていることをドイツが知れば，それは届けられることでしょう。あえて言うまでもないことです。重要なのは，国籍問題を解決するための法律です。すでにその法案は議会に提出されています。ただし，法案を人質にはしないようにお願いしたい。代償を払ってまでも，審議を止めるようなことはありません。この栄えある国務院にあっては，現在執られている措置の真意に思いを致し，その措置に同意するよう，お願いする次第です。」(13)

また，他の国務院議員の発言にも，注目に値するものがある。フリンカ・スロバキア人民党の創立者の一人で，弁護士でもあったカロル・メデリー（Karol Mederly）は家族分離には賛成せず，次のように主張した。「いかなるカトリック教徒であろうとも，おのれの良心にこの責任を負わせることはできません。…… 良心に反することだからです。ユダヤ人を東方に送ることには賛成ですが，適正なやり方で行うべきです。」それと同時に，国際条約によって強制移送を規制する必要があるとして，次のように発言した。「政府にたいしては，国際法に則って問題を整理させることにしませんか。ある国がユダヤ人を要求し，我が国がそれを与えたいと思うのであれば，両国の間でしかるべき国際条約を締結すべきです。」さらに，ユダヤ人からの国籍剥奪に潜む「落とし穴」にも注意を促し，「スロバキア国籍を剥奪したとしても，無国籍ユダヤ人の引取先はどこにもないかもしれません。戦争が終わったら，それはすぐにでも処理しなければならない課題になるに違いありません。さもなければ，ユダヤ人は皆，舞い戻って来てしまいます。それは，不本意です。私は政府にたいしてこの問題を検討し，国際法に準拠して準備するよう勧告します。」と

（12）Nižňanský, Eduard（ed.）, *Holokaust na Slovensku 6. Deportácie v roku 1942,*［Holocaust in Slovakia 6. Deportations in 1942,］Bratislava: Nadácia Milana Šimečku, 2005, Document 117, p. 201.

（13）Kamenc, I. and Nižňanský, E.（eds.）, *Holokaust na Slovensku 2...*, Document 57, pp. 153–175.

述べた[14]。

議論に参加したもう一人，フェルディナンド・クリンダ（Ferdinand Klinda）は，強制移送が国内経済に損失をもたらすことは承知してはいたものの，次のように発言した。「その一方で，これが単なる経済的な問題ではないこと，首相の言葉を借りれば，ユダヤ人を排除する最後の，しかも唯一のチャンスであることを勘案するならば，たとえ今はユダヤ人が必要であり，当座は一定の犠牲を払うことになりはしますが，それでもなお …… チャンスがあるときには，すべてのユダヤ人を漸次どこかに移送するべきという結論に落ち着くのです。ある種の最も重要な経済問題は覚悟しておかなければなりません。このことは，声を大にして主張しておきます。」[15]

アレクサンデル・マッハは，国務院の姿勢を次のように要約した。「この問題について発言した国務院の議員諸氏は，歴史の審判に耐えうるような仕方で，したがって自然法に則って，ユダヤ人を追放しなければならないと主張しました。他方で，国務院副議長は，このようなときには，厳格に法律の条文に従うことができるとは限らないと述べましたが，それは正鵠を射ています。このような状況の下では，すべてに渡って法の定めを斟酌することはできないものです。」議論が終わった後，最終的に国務院は，近い将来「誰が再定住しなければならず，誰が再定住する必要がないかを，県当局と一般市民が明確に分かるようにするために」，洗礼を受けたユダヤ人を例外とする請願を採択するか否決するかを共和国大統領に諮問することを議決するとともに，政府にたいしては再定住するユダヤ人の選別にあたって経済的利益を考慮することを勧告した[16]。

以上から明らかになるのは，1942 年初頭には，スロバキアでの強制移送の準備が，さしたる障害もなく進められたということであるが，スロバキアの当局者が躊躇（ためら）うことなくユダヤ人を悪人であり，国家の敵以外の何者でもないとしか見なかったために，移送準備が止められなかったということもまた，明らかである。しかし，当時すでに，ドイツが言う「最終解決」なるものの本当の意味［絶滅］を知っていたかどうかにかかわらず，東方でユダヤ人の肉体がかき消されてしまう恐れがあるとの声は上がっていた（たとえば，東方の状況にかんするこの種の情報は，司教ミハル・ブザルカ師（Michal Buzalka）経由でバチカン代理大使ジュセッペ・ブルツィオ師（Giuseppe Burzio）の元に届き，それが 1941 年 10 月 27 日，ブラチスラバからバチカンに送られた）。強制移送が準備されていたとき，ブルツィオ師が首相トゥカに面談を申し入れた。1942 年 3 月 9 日，ブルツィオ師はバチカン市国国務長官枢機卿ルイジ・マリオーネ師に次のように報告している。「仄聞するところによれば，スロバキアの全ユダヤ人を［ポーランド総督府の］ガリシア地方とルブリン県に大量追放することが急迫しています。この残酷な計画は内務大臣と示し合わせた首相のトゥカ氏によるものであって，ドイツ側からの圧力はまったくなかったと聞いています。なお，ドイツ側は，スロバキアにたいして，移送されるユダヤ人一人につき 500 ライヒスマルクと 2 週間分の食糧を要求したそうです。小職は，土曜日に首相を訪ねました。首相はこの報告に間違いないと述べ，この措置の正当性を激しい口調で擁護し，この措置は，非人間的なものでもなければ，反民主的なものでもないと，臆すことなく小職に言い切りました。（カトリック教徒である

（14）*Ibid*., Document 57, pp. 153-175.

（15）Kamenc, I. and Nižňanský, E.（eds.）, *Holokaust na Slovensku 2*..., Document 57, pp. 153-175.

（16）*Ibid*., Document 57, p. 178.

ことを自認している，あの首相がです。）8万人の人々をドイツ軍の手に委ねて，ポーランドへと強制移送することは，彼らの大部分にとっては死刑宣告を意味します。」[17] バチカンが1942年3月14日付の書簡で強制移送を止めさせようとしたほか[18]，バチカン駐在スロバキア大使カロル・シドル（Karol Sidor）がローマからスロバキアに到着して，ティソとトゥカに面会したが，無駄に終わった。

2．憲法（1942年法律第68号）とユダヤ人の再定住

時を同じくして，政府は強制移送のための法的根拠を作ろうとした。1942年3月24日，アレクサンデル・マッハは政府の会議で，ユダヤ人の再定住にかんする憲法案を提案した。この法案は，その翌日にスロバキア共和国国会に送付されて審議入りした。政府は国会議長に書簡を送り「近日中に強制移送が始まるので」，可及的速やかに法案を審議するようにと要請した。移送者を乗せた最初の列車がポプラド［ブラチスラバの北東約320キロメートル］から出発したのは，まさにこの日のことであった。当面の措置として，政府は，1941年法律第198号（いわゆるユダヤ法）第22条に基づいて強制移送を実行した[19]。政府が提案した憲法草案の要諦は，すべてのユダヤ人にたいするスロバキアからの移送と国籍の剥奪を可能にすることにあったが，3月に議会がこの法案を審議することはなかった。議会議長マルティン・ソコル（Martin Sokol）［1939年～1945年在職］は，法案をめぐる舌戦の後，次のように述べた。「私は速やかな審議入りを避けて，トゥカと交渉して［法案に］必要な修正を図ろうとした。」その努力が水疱に帰したとき，彼は，「傷口をこれ以上広げないためには，政府案を議論する必要がある。」と悟った[20]。最終的にこの法案が議会で採択されたのは，1942年5月15日であった。これによって，スロバキアからのユダヤ人の強制移送が可能となり，3月末から続いていた強制移送および一部のユダヤ人にたいする追放の「保護」［収容・移送の免除］は，遡及して合法とされた[21]。

（17）Nižňanský, E., *Politika antisemitizmu a holokaust* ...［The Politics of Anti-Semitism and the Holocaust ...］(in print).

（18）「我々としては，この報告が真実を語っていないと信じたい。カトリックの教えが生きている国で，このような遺憾な措置がまかり通り，多くの家族がとても気の毒な結果になるということは，あってはならないと考えるからである。」Nižňanský, E.（ed.）, *Holokaust na Slovensku 6*..., Document 44, p. 147.

（19）「第22条 第1項16歳から60歳までのユダヤ人は，国防法第38条に定める労働に従事しない限り，内務省が命ずる労働の義務を負うものとする。第2項　内務省は，前項に掲げる者のために，労働機会を提供するか，場合によっては，労働を編制しその労働条件を定めるものとする ……。」*Slovenský zákonník* 1941.［Slovak Code of Laws 1941.］

（20）Nižňanský, E., *Politika antisemitizmu a holokaust* ...（in print）.

（21）1942年法律第68号（憲法）第1条では，スロバキアから強制移送されるユダヤ人が定義されている。以下に，憲法第2条を引用する。「第2条　第1条の規定は，次の各号の者には適用しない。（a）遅くとも1939年3月14日までにキリスト教徒になった者。（b）1941年9月10日以前に結ばれた，非ユダヤ人と有効な婚姻関係にある者。第2項　1941年法律第198号［いわゆるユダヤ法］第255条により，共和国大統領から適用免除となった者，もしくは適用免除予定の者，ならびに主務大臣がスロバキアの公務，技術，経済の分野に留め置く必要があると認めた医師，薬剤師，獣医師，技術者等については，その者にたいする適用免除もしくは適用留保にかんする決定が効力を有する限り，再定住させないものとする。第3項　再定住の免除（第1項および第2項）は，妻（夫），未成年者，および［本条」第1項a号により免除された者の両親にも適用する。」*Slovenský zákonník* 1941.［Slovak Code of Laws 1941.］

その後数ヶ月間，政府は強制移送の問題に取り組んだ。たとえば 1942 年 5 月 29 日に開催された政府の会議で，マッハは，文部大臣ヨゼフ・シヴァーク（Jozef Sivák）［1939 年～1944 年在職］と合意して，ユダヤ人教師が 1942 年 7 月 31 日以降に強制移送されることになった。同年 6 月には，政府は，ユダヤ人の養子縁組を制限する法案を検討し，1942 年 7 月 2 日にスロバキア議会で採択された。ユダヤ人を強制移送から免れさせる養子縁組によって，ユダヤ人を助けようとした人がいたが，その対抗措置としてこの法律が成立したのである。

［議会議長］マルティン・ソコルは，1943 年 9 月 3 日に開催された議会委員会合同会議で，ユダヤ人の再定住ならびに数ヶ月前に制定されたユダヤ法に言及して次のように述べた。「ユダヤ法の違憲性については，ユダヤ人の再定住にかんする法律を審議する過程で，すでに議会の知るところとなっていましたが，当時の政治状況では何もできませんでした。ユダヤ人再定住の法案が数ヶ月間，店（たな）ざらしの状態になっていたとき，法的根拠はなくても何とかユダヤ人を再定住させる方向性が明確になりました。しかしこれ以上事態を悪化させないために，議会はその法案の審議に着手しました。」この合同会議では，数人の議員が，当時の反ユダヤ法制について批判的な意見を開陳した。オイゲン・フィルコーン（Eugen Filkorn）［スロバキア国会議員，カトリック司祭］は，1940 年にユダヤ人問題を解決する権限を政府に付与したことによって，議会が政府と連帯責任を負うことになった事実に注目し，「その是正方法を探るのは，議会の責務です。」と主張した。副議長フランティシェク・オルリッキー（František Orlický）も同様に，「政府はユダヤ人の概念をさらに詳しく定めましたが，議会がそれに反応することはありませんでした。」と発言した。彼はユダヤ法の改正，ならびに「同法には明記されておらず，非難の的になっている」規定(補注2) の削除を提案した(22)。ここで留意すべきは，ユダヤ法の審議過程で，同様の意見が議会内で（も外でも）聞かれなかったということである。

3．再定住にたいするドイツの圧力と移送経費

これまでの研究調査により，1942 年の強制移送にかんする限り，スロバキア政府は，スロバキアのユダヤ人の引き渡しにたいする圧力・脅迫をドイツから受けていないことが明らかになっている。しかし，スムーズな移送を求めてドイツ側が不快感を示したことがある。その事例は注目に値するが，それは，各省庁によって発行された適用除外の件数が内務省発行のイエローカードの枚数を上回ったために，1942 年 6 月 24 日にルブリンに向けて出発予定だったユダヤ人の移送列車の運行が中止されたときのことである(23)。ドイツ大使ハンス・E. ルディンは，その後（6 月 26 日），ベルリンに次のように報告した。

（補注 2）削除を求めた規定をオルリッキーは具体的には述べていない。

(22) Kamenec, I. and Nižňanský, E.（eds.）, *Holokaust na Slovensku 2*..., Document 116, pp. 278–279.

(23) 内務省第 14 局（「ユダヤ人」局）の局長アントン・ヴァシェック（Anton Vašek）は，アレクサンデル・マッハに宛てた移送停止報告書の中で次のように述べている。「1942 年法律第 68 号（憲法）第 2 条に定める決定の発出は関係省庁に移管されているので，内務省には政府間会合の決定に基づき，関係省庁［の決定］を尊重する義務がある。関係省庁による決定書は一度にまとめられて送達されることはなく，日々送達されている。…… 関係省庁がこれまでに発行した決定書を小職が確認したところ，その数は内務省が発行したイエローカードの数よりも多くなっていた。このために，決定数が修正されない以上は，移送を停止せざるを得なかった。」Nižňanský, E.（eds.）, *Holokaust na Slovensku 6*..., Document 339, pp. 419–420.

「スロバキアからのユダヤ人の追放は，目下足踏み状態である。教会の影響と一部担当者の腐敗により，ユダヤ人約3万5000人が，追放を免れる特別カードを受け取っている。ユダヤ人の再定住は，多くのお人好しのスロバキア国民にはまったく評判が悪い。……そうであるにもかかわらず，依然としてユダヤ人の再定住を続行したいと考えている首相のトゥカは，帝国からの強烈な外交圧力という形での支援を求めている。」[24] ナチス内務省国務長官エルンスト・フォン・ヴァイツゼッカー（Ernst von Weizsäker）は，ルディンにたいして次のように回答した。「従来ユダヤ人問題にたいするスロバキアの協力は，高く評価されてきたところであるが，それだけにユダヤ人の再定住の停止，とりわけ貴職発信の電報に記載されている，3万5000人にたいする追放免除は，ドイツにとってまったく驚天動地であって，折を見て，その旨大統領ティソに伝え，首相トゥカが要請する外交支援を行うことにする。」[25] ナチス外務省次官ルターも，ヨーロッパにおけるユダヤ人問題の解決にかんする報告書（1942年8月）の中で，そのときのことを思い起こしている。「ユダヤ人の再定住の継続を希望する首相トゥカは，そのために第三帝国からの外交圧力による支援を要請した。…… 大使［ルディン］には，要請された外交的支援を与える権限が付与された。……」[26]

強制移送との関連でしばしば議論された問題がもう一つある。それは，移送者一人につき500ライヒスマルクをドイツに支払うというスロバキア側の約定である。強制移送されるユダヤ人のための支払い義務が，初めて言及されたのは，首相トゥカが国務院に報告した1942年3月6日の会議であったことが分かっている。ドイツ側は，避難民の宿泊，食事，衣類，職業訓練に費用がかかるとして，経費の請求を正当とした。スロバキア共和国はこの要求に同意したのではあるが，ドイツに数百万マルクを支払おうとはしなかった。1942年3月に強制移送が始まる直前，［外務省次官］ルターは大使ルディンにたいして，最初の移送列車が間もなく出発するので，スロバキア政府と連携して必要な手続きを執るよう要請した[27]。これにたいして，ヴォイテフ・トゥカは，ドイツがユダヤ人をスロバキアに帰国させないこと，そして，ユダヤ人の強制移送にかんする国際条約を締結し，そこにはユダヤ人の財産にたいする請求権を行使しないと明記することを求めてきた。ただし，この条約は，強制移送者一人につき500ライヒスマルクの支払義務にたいして実体的効果を及ぼさないとされていた[28]。この条

(24) Nižňanský, E. (ed.), *Holokaust na Slovensku 4...*, Document 59, p. 151.

(25) *Ibid.*, Document 60, p. 152.

(26) *Ibid.*, Document 65, p. 212. 1942年8月になってついに政府は，移送列車の「円滑な運営」について次のように決定した。「…… 秩序ある経済生活のためには，…… 移送日を決めるのではなく，今後は，ジリナのセンター［通過収容所］に集められたユダヤ人収容者が1000人になり次第，ただちに移送するものとする。」Kamenec, I. and Nižňanský, E. (eds.), *Holokaust na Slovensku 2...*, Document 86, pp. 226–227.

(27)「ベルリンの保安警察兼親衛隊保安局の責任者は，スロバキアからユダヤ人を引き取ることにかんして，1942年3月18日付の書簡で次のように述べている。この作戦行動では，スロバキア側は，引き取られたユダヤ人一人につき500ライヒスマルクを第三帝国に送金することになっている。この500ライヒスマルクは，当該ユダヤ人の宿泊，食事，衣服，職業訓練の費用に充当される予定である。経験からすると，職業訓練を受けていないユダヤ人の労働生産性はすこぶる低く，訓練の効果が現れるのは，しばらく経ってからになることを考慮しておかなければならない。現在スロバキアにあるユダヤ人財産（30億スロバキア・コルナ以上）の活用が予想される。これらの措置にたいしてスロバキア側に異存はなく，責任を持って総額を支払うことが確認されている。」Nižňanský, E., *Holokaust na Slovensku 4...*, Document 31, pp. 115–116.

約は締結されなかったが，ドイツ側は 2 通の文書で回答している。最初の文書（1942 年 4 月 29 日付）ではスロバキア政府にたいして，「帝国が引き取ったユダヤ人一人につき 500 ライヒスマルクを帝国政府に送金すること」を求めた。2 番目の文書（1942 年 5 月 1 日付）では，上述したトゥカからの要請が確認されたが，支払交渉はなかなか迅速には進まず，ナチスは 6 月初めにスロバキア側に圧力をかけ，追放ユダヤ人のためにスロバキアが支払うとした金銭を充当して，ドイツで働いているスロバキア人労働者への報酬にすると宣言した[29]。1942 年 6 月 23 日にスロバキア政府は書面で，移送されるユダヤ人一人につき 500 ライヒスマルクを支払う準備ができていることを最終的に確認した。（「スロバキア政府はスロバキア領から帝国領にすでに移送されたかまたは移送される予定のスロバキア国籍のユダヤ人一人につき 500 ライヒスマルクを帝国政府に支払う用意があるが，その支払方法については後に通知する権利を留保する。」[30]）1942 年の夏から秋にかけてブラチスラバでこの問題にかんしてドイツとスロバキアの間で会議が数回開かれた。スロバキア側は料金を 500 ライヒスマルクから 250 ライヒスマルクか 300 ライヒスマルクに引き下げるよう要求した。追放されたユダヤ人についての全額支払い義務を盛り込んだ条約が最終的に締結されたのは，1942 年 9 月の第 5 回ドイツ・スロバキア政府委員会合同会議（9 月 10 日～30 日）であった[31]。

資金の調達と送金の方法は，1942 年 10 月に財務省[32] が大統領府に宛てた書簡の中に次のように記載されている。「スロバキアとドイツが締結した国際条約によれば，……

(28) 1942 年 4 月 18 日，［ドイツ大使］ルディンは［外務省］次官ルターに次のように報告した。「本日，首相トゥカはスロバキアからのユダヤ人の追放にかんする国際条約の締結を私に提案してきた。それは，ドイツ帝国が，(a) いかなる場合でも，追放されたユダヤ人をスロバキアに帰国させないこと，(b) 追放されたユダヤ人でスロバキア国籍を有する者の財産にたいする請求権を行使しないこと，を柱とする。当然ながら，この提案は，500 ライヒマルクの支払にかんする合意にたいして実体的効果を及ぼすものではない。小職は，トゥカ氏にたいして，ドイツ帝国はそのような条約を締結したいとは考えていない，それは間違いない，と回答した。許可を得ているので，口頭メモという形ではあるが，トゥカの要求を文字に起こして確認できると，小職は愚考する。」Nižňanský, E., *Holokaust na Slovensku 4*..., Document 43, p. 133.

(29) 1942 年 6 月 8 日にルターがブラチスラバ駐在ドイツ大使館に送ったのは，以下のとおり。「本年 5 月 1 日付電報第 640 号に付言するが，スロバキアから引き取ったユダヤ人一人につき 500 ライヒスマルクを支払う意思を明示した宣言文書を可及的速やかに送付するよう，スロバキア政府に念を押されたい。この金額を請求するドイツ側は，それを現在未払になっているスロバキア人労働者の賃金に充当する予定である。その金額約 2500 万ライヒスマルク（情報センター試算による）は，スロバキアに居住している労働者世帯の生活費に充てられることになる。」Nižňanský, E., *Holokaust na Slovensku 4*..., Document 54, p. 146.

(30) Nižňanský, E., *Holokaust na Slovensku 4*..., Document 58, p. 150.

(31) この件にかんする第 5 回ドイツ・スロバキア政府委員会合同会議の議事録から引用する。「第 31 項。ユダヤ人の再定住 …… について，スロバキア政府は，ドイツ帝国に引き取られるか，引き取られる予定の，スロバキア国籍のユダヤ人一人につき 500 ライヒスマルクをドイツ政府に支払う旨，合意した。ドイツ政府は，上記覚書により，ドイツ帝国に引き取られたユダヤ人のスロバキア国内にある資産にたいする請求権を放棄した。支払問題にかんして，1942 年 6 月 23 日付の覚書で外務省が予告した措置を実行するために，ブラチスラバ駐在ドイツ大使館は直ちにスロバキア政府の所轄当局に連絡し，すでに帝国に引き取られたユダヤ人の人数とスロバキア政府の支払予定金額を確定するものとする。スロバキア財務大臣は，確定金額および支払予定額について，ブラチスラバ駐在ドイツ大使館とスロバキア政府所轄当局との間で合意した上で，当該金額が親衛隊全国指導者［ヒムラー］に送金されるよう取り計らうものとする。」Nižňanský, E., *Holokaust na Slovensku 4*..., Document 70, p. 219.

スロバキア政府は，スロバキア国籍のユダヤ人の再定住費として，ユダヤ人一人当たり500ライヒスマルクをドイツ帝国に支払う義務を負う。上記の再定住費の支払方法について合意を見たのは，財務省が直ちにスロバキア国立銀行に現金で2億スロバキア・コルナを送金するが，ユダヤ人がかつて所有し，現在は国有化されている資産からの収益が所定の金額に達しない場合には，その不足分は財務省発行の短期証券によって支払われるという方法であった。」(33)

スロバキアは実際に要求どおりに支払った。そのことは，財務省から外務省に宛てた1943年12月21日付の書簡で確認されている。それによれば，こうである。「スロバキアは，自国からのユダヤ人再定住にかかる経費として，2億スロバキア・コルナを指定口座に振り込むことになった。財務省は2億スロバキア・コルナをスロバキア国立銀行の指定口座に振り込み，同行は，上記の合意に基づいて相当額をライヒスマルクに両替してドイツ当局に送金した。」(34)

4．ヨゼフ・ティソ

スロバキア共和国の首相で，後に大統領に就任したヨゼフ・ティソには，スロバキアにおけるユダヤ人コミュニティの諸権利と［ユダヤ人が社会にたいして果たしてきた］影響力を，スロバキアの独立当初から計画的に奪い去った責任があることはまぎれもない事実である。政治力を持ち権威ある司祭であったティソは，反ユダヤ政策の展開と一般大衆へのその浸透に重要な役割を果たした。ティソは「ユダヤ人問題で我々が行ったことはすべて …… 我が民族への愛に叶うものであった。それは，民族の発展を阻害した者に向けられたからである。」と述べた。大統領ティソは，1942年の強制移送についても同じことを主張している。「民族への愛」なるものの中には，迫害のための様々な措置が忍び込んでいたのである。

強制移送の準備が進められていた1942年3月初旬に，ティソはユダヤ人団体から二通の覚書を受け取っている。一通は，1942年3月5日にユダヤ人宗教団体イェシュルン協会（Yeshrun Association of Jewish Religious

(32) 1942年10月15日，財務省は，まず内務省にたいして，国外に移送されたスロバキアのユダヤ人の人数について情報を求めた。同日，内務省は，スロバキア共和国が再定住させたユダヤ人が5万7628人であると回答した。Kamenec, I. and Nižňanský, E.（eds.），*Holokaust na Slovensku 2*..., Documents 93, 94, pp. 234–235; Nižňanský, E., *Politika antisemitizmu a holokaust* ...（in print）.

(33) Kamenec, I. and Nižňanský, E.（eds.），*Holokaust na Slovensku 2*..., Document 96, pp. 236–237.

(34) Kamenec, I. and Nižňanský, E.（eds.），Holokaust na Slovensku 2..., Document 121, pp. 292–293. 1945年2月14日にブラチスラバで開催されたスロバキア国立銀行第13回審査委員会の議事録によれば，全額が支払われたことは間違いない。それには，「…… 強制移送されたユダヤ人一人につき，国は500ライヒスマルクを支払う義務がある。その義務には，恣意的な根拠以外の根拠しかなかった。」とある。Nižňanský, E.（ed.），Holokaust na Slovensku 6..., Document 489, p. 571.

［この原文（英語訳）は，“... For each deported Jew the State was obliged to pay 500 RM. There was no basis for it, except an *optical* one.”である（以下，強調は引用者による）。この“*optical*（光学的）”は，いかにも不可解であり，“optional（随意的）”の誤記ではないかと考えた訳者が元資料との対照を原執筆者に依頼したところ，上記の英文はスロバキア語の原文（“Za každého deportovaného žida musel štát zaplatiť 500 RM. To nemalo žiadneho podkladu, len ten *optický*. [...]”）の翻訳であることが改めて確かめられた（“*optický*”が字義通りに“*optical*（光学的）”と訳されている）。原執筆者からは，スロバキア語の原文は奇異であるという感想とともに，「対独支払金額には合理的根拠がない」という趣旨であるとの指摘が寄せられたこともあって，訳文では「恣意的」とした。］

Communities）とユダヤ教正統派スロバキア自治宗教団体中央事務局（Central Office of Autonomous Orthodox Jewish Religious Communities in Slovakia）が連名で提出した嘆願書である。二通目の，バーボヴチェ・ナド・ベブラボウ［ブラチスラバの北東約 125キロメートル，ニトラの北約 55キロメートル］のラビ，アルミン・フリーダー師（Armin Frieder）が直々にティソに届けたラビ協会（Rabbis' Association）からの書簡には，「この措置［強制移送］は，法律上どのような名称が付けられようとも，そしてまた，その動機をどのように正当化しようとも，現下の状況ではスロバキアに居住するユダヤ人の肉体を消し去ることに等しいことには変わりはありません。」[35] と書かれている。しかし，ティソがこれらの願い出に応ずることはなかった。バチカンはティソの措置を善しとはしなかったが，それでもティソは無言の行（ぎょう）を貫いた。

大統領の姿勢は，1941 年法律第 198 号第 255 条が大統領の職務権限とした例外規定の中にはっきりと投影されている（ただし，この例外規定の全部または一部は，いつでも取り消すことができるとされていた）。自身が大統領に就任している国家の在り方とみずから仕上げようとしている体制から例外としてマイノリティのユダヤ人の一部を保護すること，この二つは矛盾している，とティソが感じていたとは思われない。ティソは反ユダヤ主義の流れが正当であると確信し，ユダヤ人全体を保護する必要性は感じていなかった。彼の考えでは，例外措置というものは，個人の有用性や信仰の放棄への報酬であるだけでなく，金儲けの可能性にたいする代価をも伴うものであった（たとえば，例外措置を許可するために大統領府が要求する手数料の総額を想起されたい）。大統領府による例外措置の対象は，そのほとんどが 1939 年 3 月 14 日以前に改宗したユダヤ人であった。ティソが承認した例外措置は 1000 件以上にも及び，ごく近しい世帯員（約 4000 人～5000 人のユダヤ人）も保護された[36]。戦後に行われた官邸高官アントン・ノイマン博士（Anton Neumann）の裁判からは，次のことが分かる。「大統領には決定権があり，私は受理した釈放申請書のリストを作るよう命じられました。リストには，申請人を希望する様々な分野に分けて，申請者の氏名，出生地，希望，その理由を詳細に記載することになっていました。大統領は，このリストを提出させると，その中に決定結果をいつもみずからの手で書き込んでいました。大統領は，場合によっては，公共の利益，とくに経済的利益をもたらすと各省が判断した人材のリストを収集するよう大統領府に命ずることもありました。……釈放を承認するときには，公務［認可事務］にたいして，当人の財産に見合った，しかるべき手数料が請求されました。それはかなり高額で，1000 スロバキア・コルナ（約 100 ライヒスマルク）～50 万スロバキア・コルナ（約 5 万ライヒスマルク）でした。」[37]

1942 年 8 月，ホリーチ［ブラチスラバの北約 100キロメートル］で開催された宗教的・国家的祝典に出席したヨゼフ・ティソの有名な言葉を引用しないわけにはゆかない。「自己愛は神の命令です。この自己愛は，私を傷つけ，私の命を危険に晒（さら）す一切を取り除けと命じています。…… 立ち上がるのに時を失し，取り除かないで放置すれば，事態はいっそう悪化してしまいます。そうであればこそ，神の命令を受けた私たちは，それを実行してきたの

(35) Nižňanský, E. (ed.), *Holokaust na Slovensku 6...*, Document 19, p. 118.

(36) 内務省によると，1944 年 3 月 17 日までにティソが承認したのは，直接承認が 577 件，間接承認が 251 件である（合計 781 件）。

(37) Nižňanský, E., *Politika antisemitizmu a holokaust ...* (in print).

です。スロバキアの皆さん，悪人を追い立て，放り出しましょう！」[38] ティソは，徐々に終わりに近づいてきた強制移送を大衆にこのように「説明」し，弁護した。このとき，ティソは，司祭として語ったのか大統領として語ったのかを取り沙汰するのは，的外れである。この二つの立場を切り離すことは，難しいからである[39]。

5．結論

1942年3月25日から10月20日にかけて，膨大な数のユダヤ人が，ゲットーに強制集住させられたりスロバキアから「東方」の強制収容所に移送させられたりした。それは，スロバキアという国によるユダヤ人への組織的迫害の頂点であった。（とは言え，誰の目にも明らかなように，すでに1938年秋には，スロバキア政府の政策には根強い反ユダヤ的傾向が見られた。）スロバキアのユダヤ人を強制移送できるかもしれないということは，1941年末には，政府にとって，ユダヤ人を抱えますます統制をとりにくくなった社会にたいする「理想的な解決策」の一つであった。そうしなければ，スロバキアという国は，みずからが執った措置で社会の片隅に追いやり，貧困の奈落へと陥れた人々の生活の面倒を見るために，多額の資金を注ぎ込まなければならなかったことであろう。

強制移送にかんするナチス・ドイツとの交渉にあって，政府高官の中で最も深く関与したのは，ヴォイテフ・トゥカとアレクサンデル・マッハであった。強制移送にたいする政治的責任は，議会と大統領ヨゼフ・ティソだけにあるのではなく，スロバキア政府全体が負うべきものである。この行動の非人間性に注目する声も，強制移送がもたらす経済的な「不利益」を批判する声も，聞こえてこなかった。たとえ聞こえても意図的に無視されたのである。

こうして，1942年，政府は，首尾よく約5万8000人の自国民を排除し，57本の移送列車で占領下ポーランドのアウシュヴィッツ（19本の移送列車）とルブリン県（38本の移送列車）に移送した。残りのユダヤ人（合法的にスロバキアに残った人々）は，経済面でも専門的職業の面でも，余人をもっては替えがたい人たちであった（医師，獣医師，技術者）。例外が認められることもあったが，それ以外の数千人はノヴァーキー，セレッジ，ヴィーネのユダヤ人労働収容所（もしくは第6労働大隊）で労働に従事し，その近親者は，これらの人々とともに強制移送を免れることができた。

---

(38) “Čo nám patrí, z toho nikomu nič nedáme,” [“What belongs to us, we will not give any of it to anyone,”「我々の物はどんな物でも誰にも渡してなるまいぞ。」] in: *Slovák*, 18 August 1942, p. 3. [『スロバキア人（*Slovák*）』は，フリンカ・スロバキア人民党の機関紙。]

(39) ユダヤ人の強制移送にかんする，国民法廷でのティソの供述は以下のとおりである。「…… 私は本件にはまったく関与していないので，それにかんしては当然無罪です。」Hradská, Katarína (ed.), *Jozef Tiso. Prejavy a články (1944–1947)*. Bratislava: Historický ústav SAV, 2010, p. 212.

文　献　等

定期刊行物

Slovák [Slovak]

Slovenský zákonník [Slovak Code of Laws]

参考文献

Fabricus, Miroslav and Hradská, Katarína (eds.), *Jozef Tiso. Prejavy a články (1944–1947)*, [Jozef Tiso. Speeches and Articles (1944–1947),] Bratislava: Historický ústav SAV, 2010.

Kamenc, Ivan and Nižňanský, Eduard (eds.), *Holokaust na Slovensku 2. Prezident, vláda, Snem SR a Štátna rada o židovskej otázke (1939–1945)*, [Holocaust in Slovakia 2. The President, the Government, the Slovak Parliament and the State Council on the Jewish Question (1939–1945),] Bratislava: Nadácia Milana Šimečku, 2003.

Nižňanský, Eduard (ed.), *Holokaust na Slovensku 6. Deportácie v roku 1942*, [Holocaust in Slovakia 6. Deportations in 1942,] Bratislava: Dokumentačné stredisko holokaustu, 2005.

Nižňanský, Eduard (ed.), *Holokaust na Slovensku 4. Dokumenty nemeckej proveniencie*, [Holocaust in Slovakia 4. Documents of German Provenance,] Bratislava: Nadácia Milana Šimečku, Židovská náboženská obec, 2004.

Nižňanský, Eduard, *Politika antisemitizmu a holokaust* (in print). [The Politics of Antisemitism and the Holocaust (in print).]